

たと伝えられてきたが、この伝授書によって、正式に伝授されたのが、元禄二年（一六八九）五月五日であることが分り、木村道碩も木村道石であった。

弘前藩内の伝授の模様も、この伝授書によってある程度推定可能であり、本史料の出現によって、津軽一粒金丹の研究はおおいに進むものと考えている。

（弘前大学医学部）

## 軍陣歯科の小史

谷 津 三 雄

陸軍軍医学校令は明治二十一年に発令されたが、日露戦争を契機としてその必要性が認められ、明治三十九年軍医学校に軍陣外科の一分科として口腔外科が加えられた。

「東京帝国大学医科助教授石原久に依頼して其大成を期す」とある。明治四十年、はじめて歯科専攻学生を選定し大学院に依託する制度ができ、次いで明治四十一年六月一日、陸軍軍医学校に診療部が開設された。その目的に「学生練習の為め軍人、軍属及其家族に限り実費を以て本校内において診療をなすに在り」とある。

まず耳鼻咽喉科の外来診療を開始し、次いで歯科外来ができたが、隔日交代で耳鼻咽喉科と教室を共用していた。明治四十二年一月、陸軍軍医学校でははじめて二等軍医岡高格が口腔外科の専任教官に任ぜられ、「教育細則」が設けられた。すなわち、教授要目中第二十条軍陣外科学に

「口腔外科に在りては平戦前に於ける歯牙疾患に関する主要の学説を講授し、診断治療並に歯牙保存に関する実習を行ふ」とある。明治四十五年陸軍軍医学校より歯科囊及歯科器械改正意見を医務局長に提出。大正五年、陸軍軍医学校囑託として口腔外科学を講じていた石原講師が解職となり、該科の教育および診療は岡島教官の管理となった。大正七年岡島教官転出し、一等軍医三内多喜治教官となる。

この年西伯利亚出兵となり司令部、兵站監部に歯科医配属せられ、また現地陸軍病院編成にあたり、歯科医、産婦人科医各一が配属されるようになり、該附歯科医はとくに歯科診療所を市内に新設しあるいは巡回診療を行った。一報告によると「黒竜江沿岸地方巡回治療班、軍医一、歯科医一、看護長一、卒三、護兵四、並に衛生材料を編成巡回診療す」と救恤並びに宣撫工作もその目的とされていた。歯科衛生材料は「歯科行李」が使用された。大正八年五月には一、二等衛戍病院における「歯科医雇備に関する件」が発令になり、内地各陸軍病院に歯科医が採用となり、隊の歯科患者の通療が行われるようになった。一方軍医学生への教育は本科知識の緊要性に応じ従前の如く継続された。大

正十年「口腔外科学科に在りては久しく治療用動力装置の据付を見ざりしが本年四月以降之を新設し診療上一般の進歩を促せり」とあり、この時はじめて電気エンジンを装置した。

これより先の明治十年二月の西南役の傷病者治験記事（大阪陸軍臨時病院）によれば「上顎骨截除術二、下顎骨截除術一九あり」尚造頰術、造唇術、口蓋破裂縫合術等の形成手術を行った記事もみられる。当時使用した衛生材料は、大綱帯所において和蘭より購入した医扱（アンピラン）を使用し、其の中に下顎副木二、抜歯器二、禁歯広開器二、歯齧裁二等が含まれている。なお明治三十七、八年戦役では顔面戦傷多発し、その治療に非常なる進歩を来した。とくに東京予備病院戸山分院にては熱心なる岡谷一等軍医と理解ある下瀬分院長、また石原久、佐藤運雄らから指導を受け口腔科プロテーゼの創案や軟部組織に対する成形手術なども行われた。

なお、岡谷軍医は歯科の名称は不適にして口腔科と名付けたる理由、あるいは該科創設等に関する種々の意見書を書いている。「…抑も口腔科とは口腔に於ける諸般の傷痍疾

病を診察する所の学科にして齒科の如きは其の一部に属すべきものなり。然りと雖も此科は今尚甚た幼稚にして一般に世人の認むる所とならず。我國の学府たる東京帝国大学医科においてすら当然口腔科として開設すべき者に齒科の名称を被られたるが如き以て之を推知するに難らず。該科の主任たる石原助教授の如き大に其の不合理を論じ口腔科と改称せしことを力めたるもならず。依然齒科の名称の下に口腔科の事を為しつゝあり是れ真とに遺憾の底事と謂ふべし。然るに我戸山分院に於いては下瀬院長の英断を以て齒科と名付けずして口腔科と称し、眼科、耳鼻咽喉科等と共に一特科となし吾人をして名実共に其事を為さしめたるは斯学の為め大に感謝せざるべからざる所なり」と。また、明治三十八年二月「齒科の必要なる外、軍医齒科学養成法等に関する意見」の九ヶ条について「一 壮丁は必ず齲齒帯患者である。二 入營後種々の傷病疾病に罹る如く、齲齒を有せざる者も齲齒又は傷病に罹る。三 他傷病疾病と同じく之を診療しなければならぬ。四 軍医は簡單なる齒科的診療をなすの責任を有す。五 齒科患者は休暇を取り開業医に通療し、その費用は患者の負担であった。

六 陸軍の齒科器械にては満足な診療ができない……などと記し、軍医学の一部に齒科学を加え軍医学校において軍医に簡易齒科学の教授を必要とすることを力説している。

(日本大学松戸歯学部)